

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2875201101		
法人名	有限会社 パートナー		
事業所名	グループホーム パートナー伊川谷		
所在地	〒651-2116 神戸市西区南別府4丁目368-1		
自己評価作成日	平成30年1月18日	評価結果市町村受理日	平成30年2月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.wam.go.jp
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人CSウオッチ
所在地	兵庫県明石市朝霧山手町3番3号
訪問調査日	平成30年2月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

人員不足の為、2ユニットを1ユニットにし、規模を縮小しましたが、18名→半分の9名になり職員も余裕が生まれ、今までよりもより一層寄り添える介護を心掛ける事が出来ています。今後に向けてご利用者様お一人おひとりの個別ケアを心掛ける点やアットホームな雰囲気大切にしているところをアピールポイントにしたいです。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【優れている点】
・昨年末の夜勤専任者体調不良による退職に至るまで理念の「地域住民と共に」向かって全職員が事業所立地特性である2F医療ゾーンや1Fに昨年開設の保育所児童訪問等推進し、利用者満足向上への諸サービス支援を展開している。
【工夫点】・規模を縮小の1ユニット体制への変化の中で、専門職として少人数体制の中で、サービスの質低下とならないよう利用者の居心地のよさなどを考え温かい雰囲気をかもし出すように職員間で密に連携した支援が実践されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の中に「地域住民と共に」を掲げ、職員が常時、目につく様掲示板に掲示し、日々理念を共有し、実践している。	理念を明確にし、全職員が目につく掲示板に掲げ共有し、同ビル1階に昨開設の保育園児の訪問、隣接薬局の薬持参、近所のラーメン屋さん出張のおもてなし等理念の中の「地域住民と共に」の実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	外出時(お散歩やドライブの時)地域の方と挨拶を交わしたり、同ビル内の医院の往診や隣接している薬局の方が訪問されるときに日常的に交流している。	川沿いの桜並木に隣接の公園や近隣農家がある周囲環境活用した外出時や同ビル内医院往診、薬局の方の訪問等季節に応じた外出で出会う地域の方と挨拶を交わし日常的な交流を実践している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	同ビル内の医院と隣接している薬局にGHパートナーパンフレットを設置させて頂き、認知症への関心を持って頂く様、努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回奇数月の第3水曜日14:00～15:00に開催している。ご家族様に興味を持って頂ける議題を用意している。近隣のGHの管理者にも参加してもらい、パートナーも近隣のGHの運営推進会議参加し交流を深めて情報交換を行い自施設のサービスの向上の努めている。	定例の運営推進会議を開催し、日頃より関係を取っている近隣グループホーム管理者も参画して戴き、環境変化に応じた取組みやご家族の関心が高い課題等の話し合いを行い、各意見はサービスの向上に活かしている。	本人・家族への満足度の維持・向上に向け、現少人数体制における職員の明るく、効果的な個人ケア対応が期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	年4回開催されている西区GH連絡協議会に参加し、各GHの現状報告や最新の情報を交換し、情報の共有の場として、積極的に参加し協力関係を築けるように取り組んでいる。	運営推進会議参加の地域包括支援センター職員や西区GH連絡協議会参加、近隣の同業管理者等連絡を密にし、緊急課題では市の最新情報把握等迅速な協力関係を築く取組を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入社時個別に研修を行い、年1回(4月)に身体拘束について全体研修を行っている。研修時の内容についてスタッフはレポートを提出し、身体拘束をしないケアについて理解し、実践する様、掲示板にも身体拘束について掲示しており、日々実践している。	入社時はもとより年1回身体拘束について全体研修を実施している。実施後全受講職員にレポート提出による理解度確認を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	共同ビルの2階に位置し、1回は医院などあり、3階エレベータ出入口が玄関に該当する環境故、日中の当該施錠フリーへの対応工夫が望まれる。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入社時個別に研修を行い、年1回(4月)に高齢者虐待について全体研修を行っている。研修時の内容について、スタッフはレポートを提出し、高齢者虐待をしないケアに取り組み、掲示板にも高齢者虐待について掲示し日々実践している。	定例4月に虐待防止研修をグループ討議で実践し、理解度をレポート提出により検証し、重要関心事項として掲示板に掲げ、月1回のミーティング等で注意を促し、日々の虐待をしない取組み防止に繋げている。	

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当施設では現在成年後見人制度を活用しておられる利用者様がおられません。昨年12月までは成年後見人制度を利用されていた利用者様がおられました。毎年運営推進会議の議題に挙げて司法書士の先生に後見人制度について学ぶ機会を持っていました。	昨12月まで成年後見制度活用利用者がいて運営推進会議での関心事となり司法書士による話を聞き、必要性を学ぶ機会を持ち活用に繋げていた。	成年後見人対象者が現状いなくなったが、権利擁護に関する制度の理解と活用の継続的な学び機会確保が望まれます。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学时事前にご家族・ご利用者様に施設を見て頂きご不安な点や疑問点を訪ねて頂き、ご納得のいくまで説明した上で、ご契約書をお互いに読みながら説明を実施し、充分納得した上で、契約して頂くよう努めている。	見学时(本年度3名)を活用し、ご利用者・ご家族に施設案内し、不安や疑問点の不安解消に良く話し合い、契約おいても同姿勢で臨み、今回アンケートでも相応の満足度を得ている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回家族会(5月と11月)を開催し、個別に家族様にご精算を行い、2回目(11月)の家族会の時にはご精算残高の相殺をお一人ずつ行い、ご家族様のご意見や要望を聞かせて頂き、ミーティング等でご家族様の意見や要望を反映させて頂いている。	運営推進会議のご家族参加や年2回の家族会を活用して本人、家族等意見を伺い、月1回のミーティングやカンファレンスで運営に反映させている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月第2水曜日全体ミーティングを開催し、各フロアの交流も兼ね、話し合いの場を設けている。	毎月開催の全体ミーティングで運営に関する各フロアの交流を兼ねた職員意見や提案を聞く場を持ち、職員の意向・意見等受け止め、継続的に働ける職場整備に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	平成20年11月より就業環境については、「中土井社会保険労務士事務所」と委託契約をし、職員が向上心を持ち働ける環境の設備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自施設での研修は行っている。昨年は外部講師を迎えて2日にわたりスタッフ全員が研修を受講できました。しかし人材不足が続いており、外部研修を受講できる人材確保が現状不可能である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者が西区GH連絡協議会や他施設の運営推進会議に積極的に参加し、交流の機会を持ち、自施設の悩みや問題点を相談したり、逆に相談を受けたりアドバイスを言ったり、相互にサービスの質の向上に努めている。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居時ご本人様を交え面談を行い、コミュニケーションを取り合う中で情報収集に努め、全職員が情報共有でき、グループホームの個別ケアの観点に添った介護支援に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご面談時にご家族様のお話に耳を傾け意向をお伺いする様にしている。そのうえで施設の介護支援の方向も十分にお話させて頂き、無理のない程度のご協力をお願いし、良好な関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様の身体状態に合った生活が送れる様なニーズの把握に努めている。ご希望者には週3回の接骨院の施術等の利用も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の出来ない事に視点を置くのではなく、出来ることに着目し、日常生活の中で役割が持てる様にご本人様の居場所を確保できるように支援をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご面会時にご本人様の日々の様子、身体状況の報告をさせて頂く事でご家族様と職員との信頼関係を築くと共に遠方のご家族様や面会に来られないご家族様にはお電話でご報告させて頂きご本人様との関係が希薄にならない様に努めている。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様との外出や連絡、施設のイベント等への参加呼びかけを行い関係が途切れないよう支援している。	本人がこれまで培ってきた人間関係を大切にし、その関係を断ち切らない支援を心がけている。体調の変化は電話や手紙で家族にお知らせしている。室内運動会の参加呼びかけなど積極的にアプローチしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアでの食事、レクリエーションの参加を促し、共同空間を作ることにより、入居者様同士がコミュニケーションを取れる環境作りに努めている。月1回の音楽療法には皆様楽しんで参加されている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在、相談や支援を必要とされている対象の方がなく、関係を断ち切らない取組みは行っていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前、入居時に行う面談の中でご本人様・ご家族様等の希望、意向を読み取る様に努め困難な場合はご本人様との日々の生活の中で時間をかけ読み取りご本人様に添ったケアプラン作成に努めている。	日々のかかわりの中で声を掛け、どのように暮らしたいのか意向の把握に努めている。言葉や表情などからその真意を推し量ったり、それとなく確認するようにしている。意思疎通が困難な方はご家族から情報を得るようにしている。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご面談時ご本人様・ご家族様等から生活歴等を伺い、詳しいアセスメントシートを作成、職員間で情報を共有し、ご本人様らしく今までと変わらない生活ができるように支援に努めている。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常にご利用者様に寄り添い、心身状態に心配る様に努め、対応の方法や介助の方法について情報交換を密にし、一人ひとりに合った支援を心掛けている。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のカンファレンスでモニタリングを行い現状を職員間で話し合い、現支援が適切か新しいニーズはないか等を探り、ご家族様等の意向や意見を踏まえ計画を見直しより現状に合った介護計画の作成に努めている。	本人の意向や職員のアイデア等を反映しながら介護計画を作成している。日々のかかわりの中で、気づき、意見・要望を盛り込み、職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っている。	
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録にはご本人様の情報や職員とのやり取りの対応、ご家族様からの連絡、特記事項等の記入や連絡票等にも情報を記入、共有しながら支援に努めている。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様・ご家族様のニーズに対応出来る様に外部からの支援や施設内で出来る可能なサービスを考え、柔軟に対応出来る様に取り組んでいる。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフは常にご入居者様一人おひとりの人格尊重するのはもちろん性格等に合わせ言葉かけや対応を行っている。誇りやプライバシーを損ねないようにご入居者様一人おひとりの違いの尊重、さりげない介護援助を行いご本人様が思っている「現実」を否定しない。言葉かけは特に研修等で習得した幼児言葉を使わない・命令調にならないよう気を付けている。又排泄介助の気使いも心がけている。	年長者としての敬意を払い、誇りやプライバシーを損ねないような言葉かけをするように職員全員が日常的に確認し合い改善に向け取り組んでいる。経験を積み重ねた職員が多く、本人の気持ちを大切に考えさりげないケアを心がけ、自己決定しやすい言葉かけに努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご入居者様がお一人おひとりの自己決定、希望を大切にしている。自己決定が困難な方には情報をできるだけ少なくし、選択できるように工夫している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご入居者様お一人おひとりの生れてからこれまで生活歴、ご本人様にとって大切な経験や出来事をスタッフはカンファレンス・ミーティング等でスタッフ同士情報を共有し、その人らしい暮らしや尊厳を支援する様に常に話し合い努力し、決して無理強いを行わない。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時、施設での行事がある時にはよそ行きの身支度、お化粧を手伝わせて頂いたり、理容師による髪の毛のカットは2か月に1回来ていただいている。希望があれば好みの美容院等へ行かせて頂いている。			
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	年に数回のケータリングや馴染のお店からのお弁当等を注文し、日々の食事に季節ごとに味わうメニューを取り入れている。	食事が楽しみとなるよう炊飯や盛り付け、お味噌汁などは一部施設で作っている。出来る方には片づけや洗い物など職員と共に行っている。クリスマス会などイベントでは要望を聞き、お寿司など食を通じた様々なメニューを取り入れ工夫している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日水分量・食事量をチェックしており、ご利用者様に常にお茶とお菓子を用意させて頂き、嗜好の物を伺い提供させて頂いている。又お食事普通食に限らず、お一人おひとりに合った形状のお食事を提供している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	お一人おひとりに合わせて口腔ケアを行っている。歯ブラシが困難な方にはハミングッド等を使用している。ご利用者様が入れ歯等困難が生じた場合同ビル2Fの歯科受診を受け歯科医の指導を受けている。			

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	高齢化や介護度が進行し、困難になっているが、排泄チェック表に記入し、排泄パターンを把握し、声掛け誘導を行い自立に向けた支援を行っている。重度化した方もポータブルトイレを利用する等、排泄支援を行っている。トイレ誘導の声掛けにも気を配っている。	自尊心に配慮し身体機能に応じ手を差し伸べトイレでの排泄を大切にしている。排泄チェック表を使用しどのような時間帯にどのようなものを使用するのが根拠を明確にし一人ひとりについて検討、見直しなど自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を目標に水分量・食事量・運動量はこまめにチェックしている。ヨーグルトを飲んで頂いたり腹部マッサージ等行っているが薬に頼らなければならないのが現状である。カンファレンスで常に話し合っている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日が週2回(火・金)と固定になっている中でお一人おひとりの入浴のタイミングを探りながら入浴を楽しんで頂けるようにコミュニケーションを取りながら入浴タイムを支援している。重度の方は体調を考慮し、週1回と清拭を試みている。	週2回(火・金)と決めているが利用者のその日の希望や体調を確認し入っていただく。不安や羞恥心に配慮し、一人ひとりの意向を第一にして、入浴できるように支援している。重度の方にはチームプレイでその方に合った支援を工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間はレク等で活動して頂けるよう支援しているが、お一人おひとりに合わせお昼寝が習慣の方やその日の体調等に合わせ支援している。夜間の安眠の為、なるべく昼間リビングで過ごして頂けるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人個人の服薬管理表はスタッフが閲覧できるようにしており、スタッフは薬の目的について理解している。お薬の管理も薬剤師の方がされており、服薬時利用者様のお名前を読み上げ服薬ミスがない様に努力している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎朝テレビ体操と手の体操を取り入れている。カラオケや塗り絵、洗濯たみやお食事の盛り付けやお盆拭き・洗い物等役割を持って頂き、日々の張り合いになる様支援している。月1回の音楽療法も楽しみの1つです。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お散歩がお好きな方はスタッフと一緒に近所をお散歩されたり、ドライブに出かけられるよう支援している。今年は初詣にも行かれました。年1回いちご狩りの行事も楽しみにされている。	一人ひとりのその日の希望や状態にそって、お買い物など日常的に外出できるよう個別支援に努めている。ストレスがたまり周辺症状の憎悪に陥らないように近隣への散歩など短時間でも戸外に出て気分転換やストレス発散できる機会を設けている。	

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現状ご利用者様がお金を所持する事はないのですが、事務所でお預り金として個別に管理し、必要な物、嗜好の物がほしい時には、ご利用者様の希望に添うように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設の電話を使ってご家族様へ連絡やご自身の携帯を使われてお電話されている。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掲示板や玄関(EVホール)には季節の物を飾り季節を感じて頂けるように心掛けている空気清浄機付加湿器をリビングに置き、湿湿度を調節している。玄関とトイレにはセンサーライトを取り入れ心地よく過ごして頂けるよう工夫している。	フロアの飾りつけは季節感を採り入れ家具の配置などは個々の利用者が居心地の良い安心感のある場となるよう工夫されている。トイレや浴室はバリアフリーでスペースも十分備えている。重度化への対応も整備されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者様同士の関係を理解し、リビングには、テーブルを5~6こ設置し、それぞれの居場所を作っている。ご利用者様の希望により職員は臨機応変に対応し、寛げる空間づくりに対応している。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居の際ご自身の愛着のある生活用品を持って来て頂いてご使用して頂いている。現在家族写真を貼っている部屋は継続しご入居者様の状態に合わせてできる限り家族写真を用意している。	居室の部屋は、明るさや清潔感を大切にしプライバシーに配慮した対応や安心して過ごせる環境づくりに取り組んでいる。寝具やタンス、写真や思い出の品々が持ち込まれ、それぞれの利用者の居心地のよさを考え温かい雰囲気をかもし出すように努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーで安全な環境を整えている。1か月に1回カンファレンスを行いご利用者様お一人おひとりの現状について話し合い、それぞれ現状に合わせた介護支援が行われるように努力している。		